

# 都市再生整備計画

かなざわじょうとう ちく  
金沢城東地区

いしかわけん かなざわし  
石川県金沢市

令和4年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	石川県	市町村名	かなざわし 金沢市	地区名	かなざわしやうちく 金沢城東地区	面積	12.8	ha	
計画期間	令和 元	年度 ~	令和 5	年度	交付期間	令和 元	年度 ~	令和 5	年度

### 目標

芸術・文化・教育の発信拠点を整備し、地区の交流機能を向上させるとともに、持続可能で強靱な都市構造への再編を図る

目標1: 芸術・文化・教育の発信・交流拠点を構築

目標2: 良好な住環境の整備

目標3: 災害ハザードエリア(土砂災害特別警戒区域)にある大学の移転整備を行う

### 目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。  
 金沢市は、日本海沿岸の中核基幹都市であり、加賀藩の城下町として都市の礎が築かれ、その後、大きな災害や戦災を受けることなく、藩政期からの都市構造や街並み、伝統文化等の加賀百万石の趣を随所に残す歴史都市として発展してきた。  
 金沢城東地区は、金沢市都市計画マスタープランにおいて、小立野台地と犀川、浅野川の河岸段丘とが形成する起伏ある地形を活かした自然豊かで個性的な住宅地が展開し、寺院群や辰巳用水など城下町の情緒あふれる歴史性に彩られた地域に位置付けられている。  
 このような中で、市人口は現在約46万人の横ばいから、今後減少に転じ、20年後には約3万人減少し、また、高齢者の割合は大幅に上昇することが予測されている。今後の人口減少や高齢化社会へ対応するため、金沢市都市計画マスタープランにおいて、都市全体の方針として、「原則として市街地の拡大をしない」ことを打ち出しており、「適正な土地利用計画の誘導と公共交通の連携により、主な都市機能を中心市街地及び都市軸に集約する」ことで、都市構造の集約化に取り組むこととしている。  
 公的不動産の活用方針については、公共交通を介した魅力的な都市空間と快適な居住環境の創出のため、地区の特性に応じた整備手法により、都市機能の集約・強化を目指す。優良な既存建築物が集積する地区においては、建て替えではなく、既存ストックを活かす建物のリニューアルに努め、商業施設や社会福祉施設をはじめとする周辺住民の利便施設の整備に取り組む。

### まちづくりの経緯及び現況

金沢市は、都市圏人口65万人を有する北陸有数の中核市として、前面に日本海、背後に白山山系に連なる山並みを配し、犀川、浅野川によりつくられた扇状地に市街地が形成されている自然環境豊かな都市である。  
 本市は、国により中心市街地活性化基本計画の認定を受けるとともに、公共交通重要路線を軸として、その沿線に住居や各種施設を誘導する軸線強化型都市構造を将来都市像とした立地適正化計画を策定し、中心市街地の活性化、郊外への開発抑制、公共交通機関のマネジメントなどに取り組むと同時に、歴史都市の認定や、ユネスコの創造都市の認定を受けるなど、魅力ある独自のまちづくりを推進してきた。

### 課題

金沢城東地区は、中心市街地に隣接し、犀川、浅野川の河岸段丘の緑量感ある斜面緑地や、寺院群、用水、広見など城下町特有の都市構造が保全されており、豊かな水や緑、歴史性に彩られた落ち着いた住宅地が形成されている。また大学等の教育施設や医療機関が多く存在する等、文教地区として、都市づくりを進めてきた。一方で、金沢大学工学部が移転したことにより、学生を中心とする若年層の人口が減少するとともに、高齢化が急激に進んでおり、空き家や空き店舗が増えるなど、地域の賑わいが衰退していることから、工学部跡地の広大な未利用地を活用した地区の活性化が喫緊の課題となっている。

### 将来ビジョン(中長期)

#### 【総合計画】

金沢世界都市構想第2次基本計画(H18. 3)には、10の重点プロジェクトの一つとして「魅力と賑わいのある「快適都市」創造プロジェクト」が位置づけられており、この中で「金沢が本来有するコンパクトシティとしての都市構造を生かし、快適で賑わいと活力に満ちた中心市街地を形成する」といったまちづくりの方針が位置づけられている。

- ・金沢市都市計画マスタープラン(H10. 3策定)(H21. 10見直し)には、斜面緑地や歴史文化遺産群の保全・活用を図り、金沢大学工学部跡地の適正な利用、歩行者ネットワークの充実を図るとしている。
- ・世界の『交流拠点都市金沢』をめざして(H25. 3策定)には、大規模公共用地の利活用を進めるとともに、金沢大学工学部跡地については、県及び市で取得し、文教地区にふさわしい活用を図ることとしている。
- ・金沢市集約都市形成計画(H29. 3)においては、中心市街地の東部における芸術・文化・教育の発信拠点として都市機能誘導区域に指定されており、誘導施設の整備が求められている。



整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【魅力ある芸術・文化・教育の発信・交流拠点を構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や歴史のある文教地区において、金沢大学工学部跡地を活用し、金沢美術工芸大学、石川県立図書館を整備することにより、教育文化機能を集積させ、美と知を中心とした芸術文化を発信する拠点を整備する。また災害ハザードエリア(土砂災害特別警戒区域)にある大学の移転整備を行う。</li> <li>・地域の住民をはじめ多くの方が利用でき、様々なイベントが開催可能な交流スペースを各施設内に整備し、交流拠点として、地区の賑わいの創出に寄与する。</li> <li>・広場を整備し、学生と地域住民の協働によるイベントなどで活用を図るなど、地元と大学の連携によるまちづくりの拠点を創出する。</li> </ul>	<p>中心拠点誘導施設:教育文化施設(金沢美術工芸大学)                      地域生活基盤施設(地域交流広場整備事業)                      高次都市施設(地域交流センター整備事業)                      関連事業(県立図書館)</p>
<p>【良好な住環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や歴史的建造物などの地域の資源を活かした緑地空間や親水空間の整備を行い、快適な住環境を整備する。</li> <li>・狭あいな道路に面して緑豊かな歩行者空間を整備し、安心して歩ける環境を創出する。</li> </ul>	<p>高質空間形成施設(回遊ルート整備事業)                      高質空間形成施設(歩行者空間整備事業)                      高質空間形成施設(辰日用水開渠化事業)                      地域生活基盤施設(緑地整備事業、雨水貯留施設整備事業)</p>
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題について、住民と市とが協働で話し合う「ともに考えよう まちづくりミーティング」を開催し、住民参加・協働を図っている。</li> <li>・地域団体の自主的な提案により、地域と行政とが協働でまちづくりに取り組む「共同のまちづくりチャレンジ事業」の実施。</li> <li>・平成22年度より施行した学生のまち推進条例(略称)のもと、学生、地域、行政等が連携し、まちなかを活性化する事業に取り組んでいる。</li> <li>・地元住民で組織する「活性化懇話会」、美大と連携しながら、大学の学生やOBの若手作家等と美術・工芸に関する様々なイベントを地区内の大学や地域交流広場、民間施設などで開催し、「アートのまち」として積極的に情報発信を行うとともに、個性あるまちづくりを推進する。</li> </ul>	



金沢城東地区(石川県金沢市)	面積	12.8 ha	区域	小立野2~4丁目
----------------	----	---------	----	----------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。

